



独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)

川上ダム通信は川上ダムホームページでもご覧いただけます。
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami> 又は「川上ダム通信」で検索
ご意見・ご感想はこちらへ <mailto:somu1@lily.ocn.ne.jp>

地震防災訓練を実施 ～東海・東南海・南海連動地震を想定～

水資源機構では、地震発生時における防災業務の円滑かつ適切な遂行に資するとともに、機構職員の地震に関する防災意識・対応能力の向上を図ることを目的として、毎年9月1日の「防災の日」にあわせて地震防災訓練を実施しています。

当建設所では、通勤時間帯に東海・東南海・南海連動地震が発生したという想定で、初動体制の確立から訓練が始まりました。職員、家族の安否確認には、携帯電話による通話は避け、災害用伝言ダイヤル（171）を実際に利用する訓練も行いました。

携帯の利用規制だけでなく、庁舎が被災するとともに電気・ガス・水道のライフラインが断絶された場合を想定し、発動発電機を利用した電源確保や通信機器の設置、被災現場へ職員を派遣することにより情報を収集し、無線機器を利用した情報の伝達を行うなど、地震発生後にすべき作業や手順の確認を行いました。



発動発電機の始動訓練
電源確保できるか？



新情報入手で緊迫する防災本部

今回の訓練は、参加した職員全員の連携により無事に終わることができましたが、同時に反省点も見つかりました。大規模な地震が現実が発生した時、訓練と同じように職員が参集できるのか、参集した職員各々が適時適切な行動を取れるのか、これらは常日頃の防災意識の持ち方と訓練の繰返しに左右されます。

当建設所では、地震発生時に迅速な対応ができるよう、より一層の防災意識の向上、態勢の強化を図ってまいります。

【工務課 渡辺高志】

日頃の成果をわかりやすく

9月16日（水）、関西の事業所を対象とした管内技術研究発表会が開催され、当建設所の代表として総務課、調査設計課、環境課から計3名が発表しました。この発表会は水資源機構が毎年、職員の技術力向上、自己啓発や研究意欲の喚起を目的として開催しているものです。

日頃は、業務内容の分かる特定の人に説明することが多いものです。しかし、この日ばかりは所属の違う職員や関係府県、利水者の方々など多くの参加者に内容が分かるように説明しなければなりません。限られた時間を意識しつつ言葉使い、スクリーンに映す図表の見やすさ、質問への答え方など事前に準備をして臨みました。

その結果、当建設所の1名が優秀賞を、もう1名が特別賞を受賞しました。優秀賞受賞者については、11月に機構本社で開催される技術研究発表会に推薦され、関東、中部など他のブロックから選抜された者と共に発表することとなります。

今後も参加した職員に限らず、当建設所職員全員がみなさまにわかりやすい説明ができるよう日々努力していきたいと思えます。
【調査設計課 藤本智宏】



発表会のトップバッター、緊張しました



優秀賞、特別賞を受賞

環境パネルを展示しました

8月19日（水）～26日（水）、環境パネル展が青山公民館で開催されました。環境パネル展は、河川環境保全についての意識を高めることを目的とした「河川環境フェスティバル」（伊賀市青山管内住民自治協議会、伊賀川漁業協同組合、青山建設業協会協同組合、三重県、伊賀市などで構成された実行委員会が主催）の一環として毎年行われているものです。



夏休みの自由研究に役だったかな？



展示したパネル（一部）

当建設所は、川上ダムの概要や役割、ダム周辺で見られる動植物を紹介するほか、川上ダムにおける保全の取り組みなどを示したパネルを展示しました。会場では、展示したパネルを熱心に見ている親子連れの姿もみることができました。

ここでご紹介したこと以外にも様々な環境保全の取り組みを当建設所のホームページに掲載しています。今後も地域のイベントなどに参加し、河川環境保全の啓発活動に積極的に取り組んでいきます。

【環境課 廣瀬真由】

～伊賀の歴史を訪ねて (7)～

先月号に続き「伊賀市史第三巻通史編（近現代）」より、4回シリーズの第3回目をご紹介します。
最終回は「一村三町の事業開始」の掲載を予定しております。

避水移居

3. 一村三町と士族との対立

一村三町の共同事業 小田村と馬苦勞・幸坂・清水の3か町は、木興村・浅宇田村下小場とともに提出した願書から事業が始まるが、木興・浅宇田とは異なるものであった。1878（明治11）年に締結された「交換条約証」に「小田村ト馬苦勞町幸坂町清水町三ヶ所トノ人民一同避水移住ニ付、従前旧藩ノ頃ヨリ当今ニ至ルマテ連合セシ各件」とあるように、一村三町が共同で行うことが多く、この事業についても共同で行っていたことがわかる。小田村は、上野城の真西、木津川沿いにあった村で、その領域は広く、共にする馬苦勞・幸坂・清水の3町も小田村に隣接して発達した町であった。一村三町に共通する最も大きな困難は、移住地の確保であった。1874年、廃城令に伴って上野城郭の一部が払い下げになった。小田村と3町は外堀西側から南西部分西大手門までとその外側士族屋敷の一部を落札し、移住先とした。しかし、西之丸およびその周辺に住居してきた士族たちが猛反発し、一村三町の住民と対立した。森川専之助著の「避水移民遺聞」（小田事務連絡所文書）に、「高台の鉄砲場西之丸士族屋敷、及び外ぼりの現在西大手町の敷地の払い下げを受けようと、又北部城山の一部、今も明治屋敷として小字名は附せられて居る所もふくめた広大な地所を藩と交渉した。折柄士族連中の内、地所に関係の有る有志、鳩首協議の結果村田を生かして置くと何をするかも知れんから、今の内ニ打首にせよ」と対立が深刻な状態を生み出していた。これを解決し、事業を強力に推進したのがこの文中にある村田順造で、「避水移民遺聞」はその人となりを伝えている。しかし、この時にみられた士族と農民・町人の対立は、その後新たな地域の対立を生み出していく。

西之丸士族の訴え 小田村の一部を含む馬苦勞・幸坂両町の移住先で新たな問題が生じた。移住地に隣接する西之丸の士族たちが「馬苦勞町幸坂町小田村避水移居之為払下開拓移住相成候処、其移住人ニ於テ西之丸旧堀端通り之道敷ヲ蚕食シ為メニ道幅狭隘ニ相成」と、馬苦勞・幸坂両町住人が道路敷を取り込んでいると訴えたのである。この訴えは幾度となく繰り返され、住民間に対立が生じ、西之丸住民からは「私共門前之道路大ニ狭ク相成（中略）且絶壁ノ如ク崩レ雨コトニ土砂崩落チ路上欠損仕不都合無限」と県へ訴え出、馬苦勞町住民からは西之丸高台からゴミが投げ落とされるという苦情が寄せられた。この対立は、1887（明治20）年の時点で解決には至っていないことから、かなり長引いたものとみられる（「避水移居一件綴」三重県所蔵）。ただ、現在は、現地には都市計画道路三田八幡町線が設置され、原形を留めていないため、当時をしのぶことはできない。



「特定外来生物」の対策

平成27年3月、川上ダム湛水予定区域において、「特定外来生物」であるオオカワヂシャの生育を確認しました。

オオカワヂシャは放置しておくとも爆発的に広がり、周辺の希少な植物等の生育を阻害することや日本固有のカワヂシャ（環境省レッドリスト準絶滅危惧種）と交雑し、遺伝的かく乱を引き起こす恐れがあり、特定外来生物に指定され、その対策が必要な植物です。

当建設所では、これ以上オオカワヂシャを広げないために、花が咲きオオカワヂシャと容易に確認できる5月に対策を行いました。

対策の手順は、職員3名が半日かけて手作業で根ごと丁寧に引き抜き、引き抜いた個体は完全に枯らすためブルーシートの上に広げて1週間程度乾燥させました。この結果ゴミ袋3つ分にもなるオオカワヂシャを処分することができました。

ただし、完全な駆除には5年程度かかると言われており、地域の植物の保全のために引き続き対策を行ってまいります。



オオカワヂシャの花
(直径5mm程度の淡い紫色)



根ごと丁寧に引き抜く



天日乾燥中



袋詰め完了

イベントのお知らせ

第69回芭蕉祭

開催日時：10月12日（月）
開催場所：上野公園（上野公園俳聖殿広場前等）
お問い合わせ：（一社）伊賀上野観光協会
TEL：0595-26-7788

上野天神祭

開催日時：10月23日（金）～25日（日）
開催場所：上野天神宮、伊賀市街地、三筋町等
お問い合わせ：上野天神祭地域振興実行委員会
TEL：0595-21-0527

第11回ふれあいフェスタ in 青山

開催日時：11月1日（日）
開催場所：伊賀市役所青山支所周辺
お問い合わせ：ふれあいフェスタ in 青山実行委員会
TEL：0595-52-0438

編集後記

普段の私の昼食は、おにぎり2つ。食べる前にパリパリの焼海苔を巻くのがいつものパターン。こちらに赴任してからは、伊賀米をいただいています。

新米の季節ですね。事務所の周りでは稲穂が黄金色に輝いていましたが、今ではすっかり無くなり、水田の土が見えるようになりました。

週末には、伊賀の食との出会いを求めて“いがぶら”しようかな。

【広報誌発行事務局】

編集長	加納（所長）	小谷口（工務課長兼工事課長）
デスク	梅村（総務課長）	本山（第一用地課）
記者	山下（総務課）	古川（第二用地課）
	藤本（調査設計課）	日隈（工務課）
	廣瀬（環境課）	

本紙に対するご意見と掲載記事を募集します♪

当建設所では、読者の皆様により一層親しみながら川上ダム通信をお読み頂けるよう、本紙に対するご意見や掲載記事を募集しています。詳細については、下記までお問い合わせくださいますようお願いいたします。

【問い合わせ先】

総務課 梅村 TEL：0595-52-1661
Mail：somu1@lily.ocn.ne.jp

※広告など営利目的のものはお受け致しかねます。